

不登校の経過と状態に応じた支援

(1) 不登校の経過と状態のとらえ方

不登校になった児童生徒を支援する学級担任等は不登校児のたどる一般的な経過や状態を理解しておく、その後の支援の方向性も見えてくる。その流れと照らし合わせて、状況判断をしながら、その時々に応じた対応を考えて支援していくことが大切である。一般的に経過は良くなったり悪くなったり揺れ動きながら徐々に上がっていくものと考えられている。

前兆期

学校生活や家庭生活のなかで不適應を起こし、日常生活を送るのが苦しくなり始めている。やや元気がなく、教室でぼつんと一人でいることがあるが、まだ欠席や遅刻など顕著な行動は見られない。

進行前期

頭痛や腹痛などの身体症状が見られる。欠席することを親が認めると安心し、そのまま寝ていたりテレビを見たりして、日中をのんびり過ごす。休みが決まると元気を回復しその日は元気に過ごす。次の日の朝が来ると不安な表情で再び調子が悪くなる。

進行中期

登校することに対してすくみ反応を示すようになり、連続欠席が始まる。級友や担任が訪問しても、部屋に入ったまま会おうとしない。また、物や人に当たるなど攻撃的な一面を見せる場合もある。

進行後期

無気力な生活に陥る。しかし精神的に安定して、学校のことを言わなければ穏やかに暮らせるようになる。この時期は好きなことに没頭させて、「元気が出るようにエネルギーを貯めさせること」が必要である。

回復期

日常生活の立て直しを始める時期である。生活も規則正しくなり、活動性が高まる。子どもが自ら学校へ出かけようとする力」「親が子どもを学校へ押し出す力」「学校が子どもを引っ張る力」がうまくかみ合うと再登校につながる。

(2) チェックシート例と支援策

前兆期チェックシート

観点 \ 状態	まだ遅刻・欠席が顕著に現れていない状態	はい	いいえ	わからない
対人関係	休み時間や掃除中など教室の中でぼつんとしている。 友だちとのかかわりが少なくなる。 人から話しかけられても反応が鈍い。 教師との接触を避ける。			
意欲	不安そうで表情が暗い。 ちょっとしたことでいらいらしたり、ふてくされる。 人の視線や噂を気にする。 部活動をやめたがる。 忘れ物が多くなる。 何か決めるのに、時間がかかる。			
生活リズム	体の不調を訴え、保健室にいくことが多くなる。 起床時刻が遅くなり、なかなか起きにくくなる。 夜遅くまで、テレビを見ている。 着替えや朝食など登校時間に時間がかかる。			
学習	成績が目に見えて落ちてくる。 授業に集中力がなく、ぼんやりしている。 授業中など、頻繁にトイレに行くようになる。 学習用具等の忘れ物が多くなる。 家庭での学習をしなくなる。			

支援策

- 孤立感を緩和させてあげる。
- 自信を持たせる
- 温かい言葉かけを行い、受容的なかかわりを大切にする。
- できるだけ接触を多くする。
- 機会ごとにほめる。
- 子どもと仕事を一緒にする。
- 保護者との連携に努める。

進行前期チェックシート

状態 観点	心身の不調を訴える状態	はい	いいえ	わからない
対人関係	交友関係が不調となる。 人の目を気にする。			
意欲	遅刻・欠席が始まる。 学校の話題に拒否反応を示す。			
生活リズム	情緒が不安定になり、混乱が生じる。 頭痛・腹痛・発熱などの身体症状が出る。 食事や睡眠が乱れる。 朝、起きない。 休日あけに登校を渋る。 午後は元気になるが、翌朝は症状が出て登校できない。			
学習	勉強が手につかなくなる。 急な成績の低下や学習意欲の減退がみられる。			

支援策

- 声かけを積極的に行い、ちょっとしたことでつながりを深める。
- つらさに共感し、薬や保温の世話をする。
- 食事の工夫や眠りやすいように配慮する。
- 干渉を控えるなど心理的な刺激を減らす。
- 本人に対して非難・強制をしない
- 迎え・訪問・電話などは、本人が嫌がる場合は控える。
- 親を追いつめず、親の気持ちを理解して支援する。

進行中期チェックシート

状態 観点	攻撃的な一面が現れて、不安定な行動をとる状態	はい	いいえ	わからない
対人関係	物や人に当たるなどの攻撃性がある。			
	兄妹にあたったりいじめたりして勉強の邪魔をする。			
	家族と食事をしない。			
	家族との接触を避ける。			
意欲	感情や行動のコントロールができない。			
	学校や将来のことを話すと興奮状態になる。			
生活リズム	朝起こそうとすると、ひどく抵抗して泣き叫ぶことがある。			
	学校へ強引に連れて行っても逃げるように帰ってきてしまう。			
	深夜テレビ・ラジオの視聴を好み、昼夜逆転の生活になり出す。			
学習	学校の宿題プリント等はやらない。また、教科書も見なくなる。			

支援策

- 子どもの情緒の安定を最優先する。
- 登校刺激を与えない。
- 干渉を控えるなどして、心理的な刺激を減らす。
- 迎え・訪問・電話などは本人が嫌がる場合は避ける。

進行後期チェックシート

状態 観点	無気力な生活に陥る状態	はい	いいえ	わからない
対人関係	母親に打ち明け話をする。 ----- 母親にまとわりついて甘える。 ----- 外出しなくなり、電話にもでない。			
意欲	だらしなくなる。部屋を散らかし、掃除をさせない。 ----- 散髪、入浴もしなくなる。逆に頻繁になることもある。 ----- 無理に動かそうとすると、脱力状態になったり、無表情で棒のように立っていたりする。			
生活リズム	日中でも雨戸・カーテンを引き、ベッドから出ないで過ごしたりする。 ----- 昼夜逆転となる。 ----- 食事の回数が減ったり、偏った食事をする。 ----- 一日中マンガやテレビゲームをする。			
学習	勉強はしないが、マンガを読んだりテレビなどを見たりして過ごすようになる。			

支援策

- 家の中に子どもの居場所を与える。
- 会えなくても学校からの連絡物を家庭に届けたりして、連絡は取り続ける。
- 好きなことに没頭させてやる。
- 本人に対しては、安心して休むように話す。
- 子どもの言動に期待し過ぎず、ゆとりをもって見守る。

回復期チェックシート

観 点	状態 日常生活を立て直し始める状態 様子を見ながら少しずつ登校刺激を与えてもよい状態	はい	いいえ	わからない
対人関係	家庭内で情緒が安定してくる。			
	担任や級友などの学校関係者に会える。			
	家の手伝いをする。			
	電話に出るようになる。			
意欲	家庭の外部に関心をもち始める。			
	自分を肯定する言葉が出てくる。			
	進学や就職の話をするとうれやうが現れる。			
	アルバイトを始める。			
	趣味や遊びに関心をもつ。			
	不登校を振り返ることができる。			
生活リズム	生活リズムが安定してくる。			
	昼夜逆転が減少したりなくなったりしてくる。			
	食事や睡眠が規則正しくとれる。			
学習	勉強を始める。			

支援策

- 本人のすることを温かく見守る。
- 登校させることを焦らない。
- 学習・進路・就職などの情報を具体的に提供する。
- 学級・学年・学校の受け入れ体制づくりをする。
- 活動の具体的な支援をする。
- 本人の状況、気持ちをよく理解して、登校刺激を与える。